

2011年9月2日（金）

パートナー、支援者の皆さま

東日本大震災からほぼ半年が経とうとしています。本日はこちらに、国境なき子どもたちの岩手県各地域での活動についてご報告をします。

概況

町の中心部と主要な道路沿いは少しずつ“きれい”になってきているとはいえ、何ヶ所もの集積所への瓦礫撤去は今も続いています。8月に現地を訪問した際、まだ多くの行方不明の遺体が残っていると考えられている場所に行き、「自分たちは忘れられている」と嘆いている人々にも会いました。

あちらこちらで、瓦礫は山となり積み上げられています。それでもいくつかの町（釜石など）では仮設住宅がもう完成しました。山田町では津波で倒壊した電柱が新しく設置されていました。「何もない町」の真ん中に仮設住宅が建てられ、小さなレストランも再開していました。

釜石の港では船が漁に出かけるようになり、大通りに面する2軒のホテルは7月に（完全ではないものの）営業を再開しました。大槌町では、この地域の被災した6校の生徒たちを受け入れるための巨大な「仮設校舎」が建設されており、9月の開校に向けてほぼ完成した姿を見せています（KnKが大槌町に提供したバスは、子どもたちの通学のために巡回することになります）しかし、津波で流された地域では、新しく建設されている建物は一つも見かけることはありません。町の再建復興計画は未だ途中なのです。山田町役場では、復興計画は9月には用意できるだろうというお話を聞きました。

前回の、7月7日付の私たちのメッセージ以降、KnKのスタッフは岩手県を6回訪ねています。フルタイムの2名の駐在スタッフは6月から8月までは盛岡、現在は釜石の営業を再開したホテルを拠点に活動しています。

A.2011年3月～9月のKnKの活動

私たちの活動の第一期は9月半ばまでに終了します。（活動報告は9月末を目指して準備しています）

KnKはこれまで、制服、運動着、運動用具、教育資材などを生徒のみならず教師の方のためにも用意しました。また22台のスクールバスと9台の車を提供し、教師用住宅の補修、学校の設備の整備、試合や大会出場費用、個人的な必需品の支援などもしてきました。

この第一期にほぼ4億円が使われ、あるいは使われることが決定しています。

みなさん、ありがとうございました！！

今、私たちは頂いたご寄付を、どこにどのように振り分けるかの調整を行なっています。

B. 現在行なっている活動 2011年8月～2012年12月（延長の可能性もあります）

KnKは現在4つのプロジェクトに取り組んでいます。数週間あるいは数ヶ月中に実行されます。

認定NPO法人 国境なき子どもたち（KnK）

〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-3-26 TEL：03-6279-1126 FAX：03-6279-1127

E-mail：kodomom@knk.or.jp ホームページ www.knk.or.jp KnK 岩手サイト www.knk-iwate.jp

1) 教育委員会、学校、先生、若者たちへの支援

私たちは、この3月から共に活動をしている市や町役場の方々と、とても良い関係性を築いてきていると思います。

多くの方のご支援のおかげで、私たちは現地からのあらゆる要望に「イエス」と答えることができました。これからの数ヶ月間もこのようでありたいと願います。これまでも申し上げてきましたが、岩手の冬は厳しいのです。今後も教育のための、そして子どもや若者のための要望には前向きに伝えてゆきます。

このような事業のために2500万円が確保されています。

2) 釜石市のコミュニティセンターの修復と運営

6月に、被災した釜石市の中心部で青葉ビルというコミュニティセンターを見つけました。4メートルの高さまで達した津波はセンターの壁や窓を破り、床、電気、水道、ガスなどの設備を壊しました。センターで運営されていた幼稚園や障害者教室のおもちゃ、家具や書類、図書室の書籍、道具など、すべてが流れ去ってしまったのです。

市の計画として建物の再建を行うにはまだまだ時間がかかると考え、私たちは民間団体としてこの修復を申し出ました。

8月30日に市からの正式な要請を受け、最終的な合意に至りました。

最初の見積りは1億9200万円が出されました。現在KnKではその見積り内容が適正であるかどうか検討を始めるところです。

確認ができ次第、修復を開始します。開所式は2012年春の予定です。(3月11日になる前に何とか開所式にこぎつけたいと考えています)

6月以来、この修復に関して深い関心を寄せて下さっているロクシタン社と、支援について最終の協議に入ります。

また、センターで行われるイベントなども、市と一緒に考えて、できるだけ多くの方にセンターを利用してもらえるようにします。

KnKは2012年12月までこの活動を続けようと計画しており、場合によっては2013年まで延長したいと考えています。

3) 心のケアプログラム

多くの場所でほとんどの建物が流し去られました。今もなお、何も再建することができないままです。子どもたちが集まる場所も、遊ぶ場所も勉強する場所も失われてしまいました。

こうした場所のひとつである陸前高田市では、市の教育委員会との話し合いにより、各学校や仮設住宅を巡回する「移動型子どもセンター」という考えが浮かび上がりました。

8月に最初のバス(29人乗り用)を2台購入しました。地元の自動車会社と協力し、私たちの設計プランを基に、座席を取りはずし、内装を改造し、KnKの移動型子どもセンターが9月にでき上がる予定です。

この2台のバスは青少年たちが勉強したり、集まったり、KnKの「友情のレポーター」や「友情のライブラリー」のような企画に参加したりできます。また遊んだり、しゃべったり、休養したり、更には未来を考えたりすることができます。

スタッフとして、ソーシャルワーカー2人、アルバイトの補助員4人と運営責任者1名を配備し、

この10月から少なくとも来年8月まで、陸前高田の学校や仮設住宅で活動をします。
もし他の地域の学校やソーシャルワーカー、先生方や子どもたち自身がこのプロジェクトに関心を寄せてくださることがあれば、KnKは岩手県内の他の地域でも、さらに2台もしくはあと数台のバスを用意できるでしょう。
このプロジェクトは最近創設されたソフトバンク株式会社代表取締役である孫正義氏が会長を務める「東日本復興支援財団」の支援により実現されます。

4) 山田町田の浜地域のコミュニティセンターの建設

繰り返しになりますが、復興プランのできる前には新たな建設を開始することはできません。政府、地方自治体、市町村は未だその案を作成中です。

しかし・・・。

6月に山田町の町長との会合のあと、私たちは山田町での支援の提案を見直し、「みなさんの準備が整い次第、KnKは建物の再建を応援する体制にあります」と伝えました。

その2ヶ月後、8月23日山田町役場で打ち合わせを行った際、山田町役場から「田の浜地域のコミュニティセンターの建設を支援してもらえないか」という、大変うれしいリクエストを受けました。

田の浜は山田町の南にある半島に位置しており、コミュニティセンターを含め、地域の3分の2が破壊されました。避難できた住民が多かったものの、百名以上の命が失われてしまいました。KnKの支援する新しいセンターは、津波の被害が及ばなかった町の北部の高台に建てられます。今、土地を購入し建設の準備が進められるよう、調整を行っています。建築設計は2月までででき、3月から工事に取り掛かり、9ヶ月で完成するはずで、2012年中には、山田町に新しいコミュニティセンターが完成し、始動するのです。

そこでは、子どもたち、学校帰りの若者たち、大人も含め、災害予防の講習会、料理教室、スポーツ、行事、祭りの準備などなんでもできるのです。地域の会合、漁業関係の施設もなくなってしまったのでその方たちも利用できるでしょう。そして非常時には避難所にもなります。

経済的な支援：

- a) 工事に取り掛かるにあたってサンゴバン社は震災に対する1億円のご寄付のうち、未だ使われていない4500万円を使うことを承諾してくださいました。またサンゴバン社は建築に必要な材料、断熱材など無料で提供してくださいます。
- b) また、これまでにお寄せ頂いた皆さま一人ひとりのご寄付から一部ずつ集め、このセンターの建設費として充てたいと考えています。それぞれのご寄付から少しずつ「予備費」として取っておいたのはこの理由からでした。これらは全部で3000万から3500万円になります。
- c) 現在、私たちKnKの東北での活動を新たに支援して下さるサポーターの方を探しています。どうぞ、あなたも私たちの活動にご参加ください！いつでもお待ちしております。山田町の見積りでは、建設費用は最低でも2億円、また私たちのこれまでの経験と他の助言に寄れば3億円（かなり理にかなっていると思われます）となっています。

C. その他の活動について

桜の木の植樹

山田町からのリクエストを受け、津波により失われてしまった方々を偲ぶ思い、そして復興に向けた願いを込めて、町の6地区に、桜の木を1,000本植樹することになりました。このプロジェクトは、寺田倉庫グループからのご寄付により実現され、この秋にはスタッフが山田町に行くことになっています。

KnKは、同じプロジェクトを釜石市でも行いたいと希望しています。こちら、コミュニティセンターと同様に、ロクシタン社からの温かいご支援によって実現できないか検討をしています。

“We love Japan, 100 masks for Japan” 「日本のための100のマスク」

フランスでは、70人のアーティストやデザイナーたちが、100個のマスクを制作してくれました。9月20日と21日、パリのルーヴル美術館に隣接する装飾美術館で展示され、21日にオークションが行われます。この収益は、KnKを通じ、東日本大震災の被災者の方々のために使用されます。このイベントを企画して下さいましたNGO「Asia Mix Culture 協会」とMinimixに心よりお礼を申し上げます。

友情のレポーター

先日岩手県釜石市、そして大船渡市出身の2人の中学生が、友情のレポーターとしてフランスに派遣されました。彼女たちはまず、フランスのNGO Secours Populaire Françaisの企画する、世界中の子どもたちと交流を深めるというキャンプに参加をしました（SPFは、震災後支援を申し出てくださった最初の団体の一つです）。キャンプの後は、釜石市と姉妹都市となっている南フランスのディーニュ・レ・バンという町、そしてロクシタンの発祥の地であるマノスクという町を訪ね、在マルセイユ総領事やエクス＝アン＝プロヴァンス地方の日仏協会の方々とお会いすることができました。彼女たちはレポーターとして、キャンプで出会った世界中の子どもたちや、南フランスの町の人々に、震災の経験を自分の言葉で伝えることができました。

ピアノを届けたい

4月11日パリのシャンゼリゼ通りにあるロン・ポワン劇場で行われたコンサート、そして6月22日に同じくパリで行われた久石譲氏のコンサートから、KnKはご寄付を頂くことができました。私たちはこのご寄付を使い、絵を描く道具や楽器などを購入したいと考えています。

と言いますのも、釜石市を訪ねた時、私たちは震災によって家族や家を失ってしまい、仮設住宅に暮らしている生徒と出会いました。彼女は震災以前ピアノを弾いていたそうですが、ピアノも流されてしまい、また壁の薄い仮設住宅では音を鳴らすことさえできません。

私たちは、このような境遇を余儀なくしている若者に何とか以前のような音楽の喜びを取り戻してほしいと考え、まず9月にこの生徒に電子ピアノとヘッドフォンを1セット贈ることにしました。

久石譲氏、監督のジャン・ミシェル・リベ氏に、心よりお礼を申し上げます。KnKは2012年2月に完成が予定されている釜石のコミュニティセンターにも、ピアノを1台寄贈する予定です。

KnK岩手ウェブサイトがオープンします

KnKは、東北地方での活動をご紹介するためのウェブサイトを立ち上げました。これからも現地での活動を発信してまいりますので、どうぞご覧ください。

www.knk-iwate.jp

最後に

たくさんの個人、団体、組織、企業が、日本中からそして世界中から東日本大震災と津波の被災者に対して援助と支援の手を差し伸べようと努力してくださいました。

私たちはお一人おひとりに心から感謝の気持ちを抱き、また特に岩手の人たちのために私たちを支援してくださった皆さまに厚く御礼を申し上げます。

物資の配布、建物の修復、心のケア、新たなセンターの建設など、私たちはまたやることがたくさんあります。

もし皆さまが、これからも私たちに手を差し伸べ続けてくだされば、それは何にも代えがたい力となり、KnKは引き続き活動を続けることができます。今後も中長期的に活動を継続していくためにも、私たちはさらに支援が必要なのです。

多くの方からKnKの活動に参加したいというお話を受けています。これが実はなかなか難しいのです。というのも私たちの向き合う相手は子どもたち自身だけではなく、彼らの先生方であり、教育委員会であり、町役場や市役所であったりするのです。

釜石のコミュニティセンターは2012年2月に再開の予定で、山田町のコミュニティセンターは2012年末に開設する予定となっています。企業の皆さまには様々なワークショップを企画実行していただけると嬉しいです。またミュージシャンの方、画家の方、その他のアーティストの方々とも一緒に、様々なイベントを開催できればと思います。

前回のお知らせで申し上げたかと思いますが、KnKは今後数ヶ月、そして数年、岩手の方々に寄り添い続けていきたいと考えています。

皆さまに心からの感謝を申し上げます。

認定NPO 法人国境なき子どもたち 事務局長
ドミニク レギュイエ

* 本レポートは、9月2日時点の情報を元に作成されており、寄付金の使途につきましては、被災地の状況等により変更となる可能性があります。予めご了承ください。